

## デジタル機器リサイクル

# 効果、CO<sub>2</sub>で数値化

## リサイクルテックが新事業

【名古屋】リサイクルテック・ジャパン(名古屋港区、高取美樹社長、052・389・2277)は、2010年1月にパソコンや携帯電話などデジタル機器のリサイクル時の二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)削減量を数値化するサービスを始める。フルハシ環境総合研究所(名古屋市中区)と共同で行うもので、同様のサービスは全国でも珍しい。電子機器メーカーがリサイクル時のCO<sub>2</sub>削減量を詳細に把握できることでリサイクル率向上につながる。

### 削減量、埋立処理と比較

同サービスは廃棄されたデジタル機器を、リサイクルできる素材やリユースできる部品など素材ごとに手作業で解体し計量する。計量した素材や部品のデータを基に、製品を埋立処理した場合と部品などを分別回収するリサイクル処理した場合、製造時に新品部品を採用する場合とリユース部品を使用する場合のそれぞれのCO<sub>2</sub>排出量を比較する。

これまで電子機器メーカーは、リサイクル時のCO<sub>2</sub>削減効果を数値で厳密に把握できていなかった。サービス開始に向けた、リサイクルテック・ジャパンがリサイクル業ですでに扱っている製品

でデータを収集し、具体的な削減効果の数値を策定。これを基にメーカーに同サービスを提案する。

リサイクルテック・ジャパンは廃棄された遊技機や電子機器などの分解・分別が主力で、10年2月期売上高は4億円の見通し。フルハシ環境総合研究所は、環境関連のコンサルティング会社。CO<sub>2</sub>排出量の算出を多く手がけている。